

【随筆】

お盆と言えはもう秋空ですよ

住 吉 尚

(釧路支部)

少し前のことになりますが、写真を見てください。これは7月27日の昼頃、十勝川河口橋の上から川の中にいるオオハクチョウを撮ったものです。最近では本州や苫小牧あたりで繁殖したコブハクチョウが道東にも現れることがあります。この写真の個体はオオハクチョウのようです。遠くからですし、写真を無理に拡大したので不鮮明ですが、特に外見に異常は見られない様子でした。でもこの春になって、仲間たちがシベリアに旅立って行くのを、何の異常もない個体が「平然と見送る」なんてことはないでしょうね。一緒に行きたかった！でも行けなかった！なのでしょうね。たった1羽で、ここに残ったハクチョウにはどんな思いがあるのでしょうか。遠くから見ただけですが、全く飛べないの？少しは飛べるけど遠くまでは飛ぶことはできないのでシベリア行きを諦めたの？彼？あるいは彼女？には辛い辛い決断があったのでしょうか。私が未だ動物園に勤務していた時、毎日通う道路脇の水たまりに、明らかに翼に異常があるハクチョウがいるのを見ていました。ところがある日、この個体が動物園のハクチョウ池にいたのです。両方の翼が上手く閉じられず、このためか飛ぶための羽根が擦り切れていて、私には全く飛ぶことができないように思われましたが、彼は「このままでは飢え死にする、あそこに行けば食べ物可得られる！」と思ったのでしょうか。ほかの個体に聞いたのか？あるいは野生の勘が働いたのか？私には分かりませんでした。なんと不思議なことが起きるものだと思います。そして野生の個体が最後に頼って来てくれたことに、大変感激したのを思い出しました。この個体はその後には全く飛ぶことができず、次第に衰弱していきましたが、私には老衰のように見えました。歳をとって手足の関節が動かなくなり、羽替わりもできずにボロボロになって死んでいきましたが、餌はたくさんあり、仲間のハクチョウもいる中で死んでいったのはせめてもの救いだったかなーと、勝手に思ったものでした。動物園の思い出ではもう一つ、野生の厳しさを思い知らされた事件があります。管理棟の裏の、展示していないところにあったワシ類のケージの上に、



夏のオオハクチョウ

若いオオワシが毎日止まっていた。ところがある日、私がケージに近づくとバタバタとケージの上から落ちてきました。私は慌ててこのワシをつかみ、空いた保護ケージに入れて、後ろからホッケを1匹放り込んでやると、振り向きざまに彼はホッケを一飲みにしたではありませんか。その時初めて、毎日ケージの上で彼が何を考えていたのかが分かった気がしました。この個体は保護後に判明したのですが、片目が見えません。これでは自然界で餌をとるのは無理でしょう。ケージの中のワシが毎日充分な餌を食べているのがうらやましかったのでしょうか。野生で生きるのはそれほど大変なことなのです。

野生動物を見ながら妙な感慨にふけるのはやはり歳のせいなのでしょう。遠い昔のことを思い出すのもやはり歳のせいなのでしょう。先日は運転免許更新のために、認知症検査を受け、10日後には高齢者運転講習を受けました。これを済ませてやっと通常の運転免許更新手続きに入れると言うことのように。公安委員会はあからさまに「年寄り運転を止めたら！」と言っているようです。でも北海道に住んでいると、どこにいても自家用車がないと不便ですよ。公共の乗り物は採算が合わないからと言って、どんどん減らしておいて、「自家用車には乗らないでくれ！」はないと思いますが、どうでしょうか？恥ずかしながら私はアクセルの踏み違いを経験しています。頭は「おい、踏み違いだ！」と思っ

ことを人に話すと、「それは危ないでしょう！右足が間違えてブレーキに行きそうだ！」と。それで良いのです。左右の足どちらであれ「ブレーキを踏んで止まれ！」、止まることができれば良いのですから。そしてもう一つ。車を替えました。安全補助装置がたくさん付いた車へです。これであと何年運転ができるのでしょうか？最後は何をもって「止める！」という決断に至るか？、には不安もありますね。

お盆が過ぎると、どこのお宅でも庭木の剪定をしますよね。私も円く刈り込んだオンコがそれぞれに枝を伸ばし、ぼさぼさ頭になっていましたから、これを刈りこんで綺麗な円形に整えました。これをお盆前にやるとまた枝を伸ばしてしまうので、私は年に1度だけで良いようにこの時期に刈り込むようにしています。そして今年もまた、オンコを少しだけですが短くしました。普通に立って手が届く高さまでにしないと、刈り込みなどで不安定な脚立に上ってケガなどしたくはありませんからね。



私が刈り込んだオンコ

庭で作った野菜は、食べきれなくて大変なくらい収穫の多いものと、さっぱり収穫できないものとが両極端に出てきます。食べるだけ収穫できるよう上手にするにはどうしたら良いものやら。キュウリは食べきれなくなったと思ったら、あつという間に病気が出て終わりになってしまいました。でも庭の野菜は採れても採れなくてもそれぞれに面白いものですね。妻は花畑を削って野菜を増やそうと今日も頑張っています。10年以上放つたらかしくしていたムスカリの球根が大変な量に。大きくなったツツジを1本抜いて、ムスカリを減らして、来年はさらに庭の野菜に追いかけられそうです。「野菜怖い！」にならないよう考えましょう。

また別の日、タンチョウを探して釧路川の築堤を歩きましたが収穫なしで、築堤を降りて道路に出ようとハン

ドルを切ると、そこにキツネの親子が！子ギツネが3匹、と親ギツネが1匹。4匹はのんびり砂利の上で昼寝中でした。私が車の窓を開け写真を撮ろうとすると、3匹の子ギツネはこそこそと草やぶへと隠れてしまいましたが、親ギツネは「車から降りてこない人間ならたいした危険はないだろう！」と判断したのでしょうか。のんびりあくびをして子供たちの安全を確認し、ゆっくり車に道をあけるようです。「せっかくのんびりできたのに、やめてほしい！」と言う声が聞こえてきたような気がしました。こんなのんびりした景色も良いものですね。どうもあくせくしがちですからね。



人は怖いかな？



あくびをして、さて避けようか？

近年ではクマの目撃情報がどこでも普通にありますよね。でも目撃情報を役所や警察に届ける人が増えたから、という側面はないのでしょうか？私は「単にクマが増えた」と言うこともあるとしても、人間の側の情報のやり取りの増加も大きく影響しているのではないかと考えています。携帯電話やスマホなどで「簡単に情報を送れるようになったから」と言う側面は無視できないでしょう。最近気になっているのはあちこちで「犬がクマに食

われる！」と言うニュースです。キツネが飼い犬のいるお宅を回って、犬の食べ残しを食べて歩く！と言うことを聞いていましたが、クマも最初は犬の食べ残しに誘われて犬に近づいたのでしょうか。でも犬は鎖でつながれていますから、クマが食べようと思えば簡単に捕まってしまうですね。犬の餌より犬自体の方がより良い餌だと認識するようになったとすると怖いですね。私が未だ学生であった頃、当時日本でヒグマに最も詳しいと言われた故犬飼哲夫先生は「クマは犬を食わないのだ」と言っていました。この状況を知ったら何と言ったでしょうか？そしてまたクマによる事故が起きましたね。クマによる事故はハンターがクマを撃った後に起きることが多いのが特徴です。私の経験では即死することはめったにありません。クマが死んだかどうかを確認するのが最も危険な瞬間なのです。

もう9月です。道端のサビタの花が、咲き始めは真っ白だったのが、少しずつ色あせてうっすらピンクがかってくるのも、「秋ですよ！」と言っているようで風流なものです。オニユリの濃い橙色は青空に映えて、釧路の空にとっても似合いです。皆さんのお住いの所では秋の花は何でしょうか？



サビタ (ノリウツギ)

ところで、今年のタンチョウバンディング調査で標識装着ができたヒナは27羽でした。そしてこのほど、そのヒナ達の性別が判明しました。総捕獲数27羽のうち、十勝で13羽、釧路・根室で14羽でした。十勝での13羽は雄が6羽、雌が7羽でした。これはほぼ半々と言うことで予想通りです。でも釧路・根室で捕獲した14羽のうち、雄は3羽で雌は11羽でした。しかもこの雄3羽のうち、弟子屈町内で捕獲したヒナ2羽連れの家族が2羽とも雄だったので、ほかには1羽しか雄はいなかったと言うことです。単なる確率の問題とは言え、ここまで性別が偏

るとは思いもしませんでした。でもタンチョウ全体の中で性別が偏って問題が起こるほどではないと思っていますがどうなのでしょう。来年はどんな結果が出て来るのかもまた楽しみです。と言いながら過去3年間の結果を調べてみました。その結果は大変興味深いものでした。まずは昨年(2018年)の結果です。総捕獲数は25羽でした。そしてこのうち、雄は14羽で、雌は11羽でした。そして十勝で捕まえた4羽のうち、雄が2羽、雌も2羽で、ちょうど半々でした。そして釧路・根室で捕獲した21羽のうち、雄は12羽で雌は9羽となっており、今年より雄と雌の偏りが少ないですね。これならマーコンなものか！と思えますよね。では一昨年(2017年)の結果はと言えば、総捕獲数が19羽で雄が4羽、雌が15羽でした。さらにこのうち、十勝で捕まえた6羽は、雄が3羽で雌が3羽なのに対して、釧路・根室で捕まえた13羽は、雄が1羽で雌が12羽と極端に雌に偏っています。3年間の結果を見ると、十勝管内では雄・雌がほぼ半々なのに対して、釧路・根室では雌の割合が極端に多くなっています。なんでこんなことになるのかについては良く分かりません。以前は年によって偏りが出ても積み重ねていくと、半々ぐらいになるのでは！と軽く考えていました。でもこうして偏りの中身を見ていくと、本当に「単なる偶然？」なのかについては再考する必要があるかもしれません。十勝では捕まえた羽数にかかわらずに半々ですから、母数と言いますか、その年生まれのヒナがほぼ雄・雌半々に生まれたと言うことを表しているとするならば、釧路・根室では母数が半々ではなく、大きく偏っていると言うことを表しているに違いない！と私は考えるようになりました。確率の問題としても、半々の中から13個取って1対12なんてありえないと思いますがね。でもなぜ？そしてどうなる？と言うことで、またまた不思議が一つ増えてしまいました。漠然とした私の感覚では、十勝に分布を広げた個体群は健全で、釧路・根室に残った個体群は、雄の遺伝子に環境に大きく左右される何かの欠陥因子が蓄積されつつあるのではないかと！これは雄が繁殖場所を選ぶ際に、生まれた場所に近い場所を選ぶということから、個体数が増えて喜んでいると突然「わー！」と言うことになりそうですがどうでしょうか。でも釧路産の雄が減ると十勝産の雄が補充されるでしょうから、判然としないうまま過ぎていく可能性の方が高いかも。

ここ釧路では最近季節と気温が少しずつ来てきているような気がします。特に夏から秋にかけては、以前は気温が下がって秋を感じていたのが、今では秋が来てからの方が気温が高いことが多く、しっくりしませんね。で



8月末は未だ袋角です

も気温が高いとはいえ、草木などの自然界は確実に秋ですよ！と言っています。先日牧草地にエゾシカの群れを見ました。雄群ですので、皆角が伸びています。未だ皮をかぶっていて、中には角を作るための血液が入っていて、この状態を袋角と言います。もう少しすると角の皮が剥けてあの鋭い角になります。そうすると雌を求めて雄同士の戦いが起き、鋭い角が活躍することになります。

〔五七五〕
 神田立ち飲み手開きの鯛フライ
 終電を逃し夜長のマーヴィン・ゲイ

〔七言絶句〕
 悶悶
 旅行推進四連休
 乗物予約検討中
 予約満杯更検査
 庭先焼肉驟雨襲

廃棄
 実家帰省連休中
 父親独居齢九十
 小蠅嘔出野菜箱
 堆肥容器開激臭

(札幌市 頑黒和尚)

(俳句)
 静かさや歓声遠き体育の日
 (川柳)
 冷房を入れた翌日暖房し

(都々逸)
 誰ノミクス
 貧者媚び売る
 トリクルダウン
 富者に頭が
 上がらない

(現代漢詩)
 長月
 猛暑襲来立秋過
 危険残暑熱帯夜
 一転冷却秋長雨
 地球病的寒暖差

(幕別町 豆作(まめさく))

(川柳)
 灼熱の
 古都の仏も
 マスクして

(都々逸)
 歩いて反芻
 脳の糧
 粗飼料不足は
 牛だけか

(現代漢詩)
 歴史反復必然性
 無敵帝国陸海軍
 本道農業原動力
 全面依存舶来油
 栄華刹那方丈記

こっそり検査で
 心不全
 オリンピックは
 五里霜中

偽憂乳ぢじい(帯広市)

(句題) 鹿

〔峠道 猛獣なりし蝦夷の鹿〕
 〔横切るは ボスから子供鹿の群〕
 〔廃屋は 鹿の野となり 夢のあと〕

(室蘭市 白波瀬 稔歳)